

《教育長メッセージ 第14号》

『コミュニティスクール』

私は、これからの海老名市立小中学校の在り方として、「小中一貫教育の実践」と「コミュニティスクール化」を進めていきたいと考えています。

今回は、そのうちの「コミュニティスクール」について、私の考えを話してみたいと思います。



「コミュニティスクール」とは、これまで学校だけで行ってきた学校運営に、保護者や地域の方々などに参画していただくという制度です。具体的には、学校に、学校・保護者・地域の方々の話し合いの場である学校運営協議会を設置し、校長が作成する学校運営の基本方針を承認したり、学校運営や教育活動に意見を言ったりすることにより、学校と保護者、地域が子どもの育ちを協働により支えるというものです。

私がめざしているのは、「海老名型コミュニティスクール」です。

組織としては、すでに行われている学校評議員制度と、今年度、小学校で立ち上げた学校応援団をもとに作り上げるもので、子どもたちと学校を支援することを目的とした組織です。

さて、学校（子どもたちと教職員）は、支援が必要なのでしょうか。

世界一多忙とされる日本の教職員は、多様化する教育ニーズに対応して、学力や社会性を身につけるための学習の実践だけでも大変なのに、しつけなどの家庭教育の問題まで抱え込み、価値観の違う保護者への対応などに疲弊している状況があります。また、子どもたちを取り巻く社会環境の変化によるさまざまな教育課題は、学校だけでは解決できないものが多くあります。教職員は、本来の職務である教育指導・支援に専念するためにも、それらの問題や課題を抱え込まず、保護者や地域の方々とともに協働して対応する必要に迫られています。

私は、個人的な考えですが、子どもたちはできるだけ多くの大人にかかわってもらった方がしあわせになれると思っています。特に、第三者のかかわりは重要です。学校以外での社会教育の場でのかかわりはもちろんですが、学校にも多くの大人に入ってきていただいて、子どもたちにかかわってほしいと、私は願っています。

そして、子どもたちにかかわる大人にとっても、子どもたちとともに自分の成長を実感すること、そのことが自分たちの生きがいにつながること

が大切であると考えています。

どうでしょう。「コミュニティスクール」は、子どもを中心に、学校・家庭・地域にとって、より効果的な学校運営システムであると、考えるのですが、いかがでしょうか。

私は、今後、海老名型のコミュニティスクールを市内の全小中学校で展開していきたいと計画しています。

次回は、『子どもたちに求められている力』について、話してみたいと思います。